

おやこで、てをうごかす。



以下は2019年6月から現在に至るまでの親子参加クラス（1期）の講座の様子です。

第1回： 2019年6月22日（土曜日） おうちにある材料で工作をしてみよう

新聞紙・ビニールテープ・輪ゴム・紙コップ・アルミホイル。。

おうちにあるもので意外にもいろいろな制作ができます。

手をたくさん使って立体を作って行って欲しいので、造形を中心に行ないました。

アルケミストが学んで欲しかったこと：

「切る」「くっつける」「巻きつける」。。

基本動作を手に覚えてもらうための基礎「握る」を、マスターする回です。

握り込む、ひっぱりながら巻きつけるなど、

ことばで表現はむづかしい 力の入れ具合の、細かな調節のあんばいを
「すきなものをつくる」を駆動力にして覚えていってもらいました。



初回で緊張していた様子だったので、
部屋中に新聞紙をまるめてまきちらすことから始めて、
遊びから入っていきました。
幼稚園児年少さんは握ること自体が大変。
それでもキノコを作ったりボールを作ったり。。。
自分の身体の何倍もあるようなドラゴンを作った子もいました。



第2回：2019年7月27日（土曜日）

アトリエにあるもので料理を作ろう



「絵画造形アトリエの講座で料理？」と思われるかもしれませんが、手を動かしてもものを作っていく動作としては同じ行為です。今回は食事の基本、主食となるご飯とパンを作り、アトリエに自生しているふきをつかって煮物をつくりました。ご飯は土鍋で炊き、パンは羽田が自宅で常用している自家製のレーズン酵母で作りました。

アルケミストが学んで欲しいこと：

「身の回りにあるものは、けっこう自分でつくれるよ！」と体感してほしいと設定した課題です。

「買わないとない・暮らせない・生きていけない」ではなく、各自生きていけるだけの実力は備わっていて、分業の果てに経済があるのだ、



ということをなんとなく実感してもらいたい、というものです。

食は楽しみでもありますが、
命を養うための重要な活動。

食べられるものを見つけて、採取して、料理して。
食を自分のちからでまかなう活動は、

根源的な自信や生きる納得感につながります。

何かに失敗してもびくともしない根っこは、
こういった生きることに対する
『目に見えない、からだごとの納得』の積み重ねで
出来ていきます。



「酵母をびっくりさせないようにね」と言われてそうっとさわりました



手についたご飯つぶを食べる方に一生懸命でごはんがみるみる減ります



取ってきたふきを塩ずりして下ごしらえ



かつお節も削ってお出汁をとりました



自分で作ったおにぎり。おいしいかな？



試食が終わると「前回やったやつやりたい！」とリクエストが。

第3回：2019年9月28日（土曜日） 絵の具のいろいろ 水彩絵の具の使い方



油絵の具と日本画の絵の具、アトリエにある色々な絵の具をまず触ってみてもらって絵の具ってどうやってできているのかをなんとなく体感してもらいました。その後は、3原色を使って、たくさんの色をつくってもらいました。

できた色は瓶の形を模した紙に着彩していきました。

自分の作った色を改めて見て、色の印象を味わうためのしかけです。

「これはオレンジジュース!」「これは毒の薬だ」等、いろいろな会話が飛び交いました。

水をたっぷり使う使い方や石鹼水を使う・道具を使う手法など、「モダンテクニック」と呼ばれる手法をなるべくたくさんやって欲しかったのですが、できたのは3つくらい。

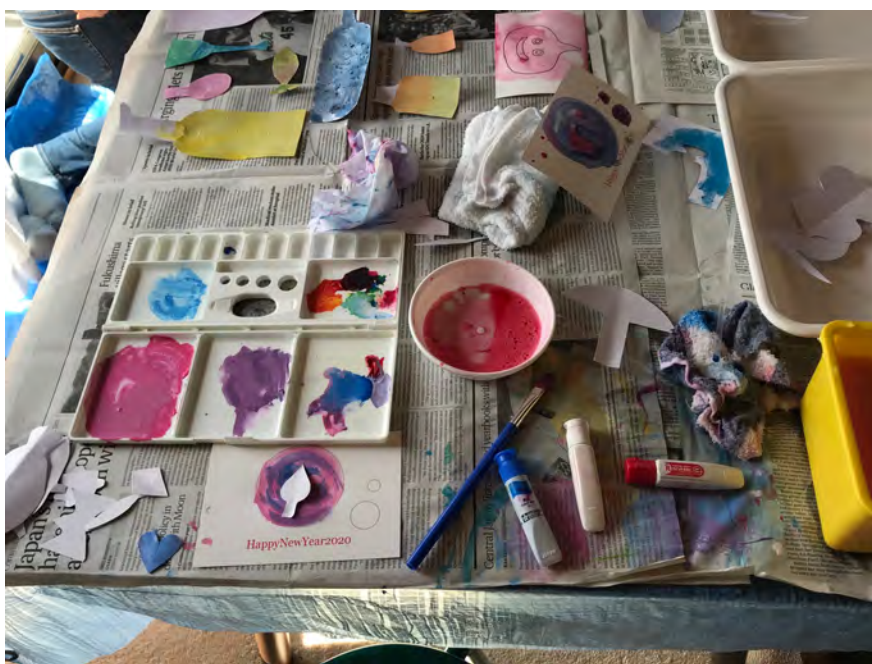
欲張ってはいけませんね^^;

アルケミストが学んで欲しいこと：色を混ぜると変化することを楽しんで、親しみをもって使えるようになってほしいのが目的でした。混ぜる色を2色に抑えると明るい色になること、何

色も混ぜていくと明度が下がることを体感してもらいました。掃除のしかた、筆洗バケツ、筆の使い方のコツを知るだけで大人も子どもも相当劇的に扱いが変わりますが、学齢の小さいお子さんが多かったので、とにかく楽しんでいただくことを主眼にしました。



赤・青・黄色をパレットに出し好きな2色を混ぜてみる



はじめは整然としていた机の上もあっという間に大変なことに



「石鹼水でプクプクさせて、泡の跡ができる手法」を紹介したら大ブレイク



もう、皆さんこれしかやってくれない笑





飽きちゃったおちびさんはアトリエのゆずを採取





額に入れて完成です！

第4回：2019年10月26日（土曜日）粘土をつかおう

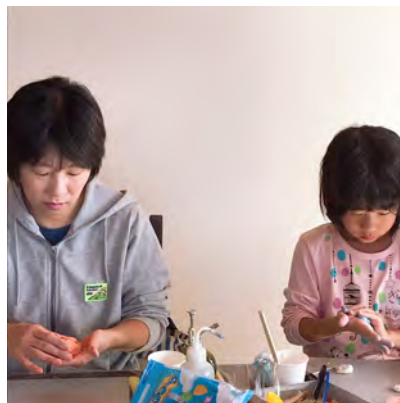


アトリエで一番古い先生の深谷ちひろ先生が、
立体（粘土）を使った遊びとオーナメント作りを通して、
粘土を扱う際に必要な基本的なことを教えてくださいました。



深谷先生は立体的塑像（粘土）が専門。「ひねくり回したってなんとなく形はできる素材だけれど、扱いがわかるともっと自由につかえます」と、深谷先生お手製のイラストつき詳しい手書きレジュメを見ながら進めました

どべ（粘土どうしをつける）方法や形作るときの手の使い方は、知らなくてもできるけど、知れば材料とぐっと仲良くなれて、思う通りに成形できるようになることにきっと驚きます。



相談したり、集中したり。静かな時間が流れます

第5回： 2019年11月30日（土曜日）：木を使おう



この日も立体担当の深谷先生が教えてくださいました。木を切ったり、金槌をつかったり。。

木、という素材を、とことん楽しんでもらいます。

そのなかで道具が使えるようになればなおよし、というスタンスです。



木の繊維とこの歯の種類について深谷先生が説明しました

安全な使い方はしっかり学んでからはとにかく実践！でした。



お父さんががっつりお嬢さんをサポート



幼稚園のカズマくんも集中

自由制作にしたところ、できあがってきたものが意外とシュールなキャラ？が多かったのも楽しかったです。



アルケミストが学んで欲しいこと：

あれもこれも、と内容を盛り込みすぎるとちびっこはしっかり体験を味わえません。
素材をたっぷりひねくり回すこと。まずは素材を味わうことを今回のキモにして、
とにかく切ることを楽しんでもらいました。

第6回：2020年1月25日（土曜日） 前半の振り返り、フリーの日

前半を踏まえて、こんなことがしたい！というものをしてみました。

アルケミストの通常クラスが月末に行う「自由制作」と全く同じ内容です。

材料庫に行き、「何をつかおう？」「何がやりたいかなあ？」と

その日の制作を決めることから始めました。



たくさんある材料と道具に圧倒されてなかなか決まらない子。

スパーンと決めて、もうどんどん作る子。

他の子やお姉さんの作品が気になって、内容がどんどんかわっていく子。。

進め方もそれぞれで、それも楽しかったです。



木材で作る乗り物や、絵画制作、粘土小物、針金細工や木と毛糸のオブジェ。。。
みんながみごとに違う、「こういうことやりたい」という制作をやりました。



ビームが出てます

アルケミストが学んで欲しいこと：

役に立つとか勉強とかありますけど、根っこは楽しいってこと。

とにかくやってみたいことを存分に楽しんでいただきました。

アトリエにある材料・道具はどれでも使ってくださいね！と聞いて、

材料をあれこれ見てみることも楽しかったみたいです。

第7回：2020年2月22日（土曜日） 感覚を絵にしてみよう



色々なものを聞いたりさわってみた、その感覚をいろとかたちにする、
というアルケミストでは定番中の定番制作です。

とくに、音楽を絵にする制作はちびっこの多くが好きで

「夕ご飯にカレー食べたい」のノリで

「ねえ、あれまたやろうよ」とリクエストが繰り返し出る制作です。



「・・・そんなことできるの？」と感ずるのでは、と思いますが、
こういった感覚はもともと、誰にでもあるものです。

目をつぶってものに触れて、「この感じ、色にしたら何色？」

音を聞いて、「この音はどんな色？どんな形？」などなど、

順を追ってアルケミストのエクササイズ（準備運動）を終えれば、大人も子どもも、多くの人が自分の感覚を色や形で表現できることに気がついて制作できるようになっていきます。





面白いのは、これができるようになるのは平均して小学校4年生以降であることです。経験上の感覚ではありますし、個人差はかなりあるのですが、小さいお子さんにとっては難しい制作のようです。幼稚園年中さんだけのWSを開催したとき、彼らは感覚から連想した記憶を描くことが多かったです。また、不思議なことに、その時は触覚のほうは意外に幼稚園の子でもできましたが、聴覚を色と形に変換することは難しかったようでした。



今回の講座も幼稚園の子、低学年の子に飽きちゃう子は出ます。

その子は無理せず紙粘土をしたり、自分が好きな絵を描いてみたりしてもらいました。



今回はまず、表現の道具であるオイルパステルとハードパステルの使い方を練習したあとにエクササイズを行い、各自の制作へと移行しました。



お母さまチーム (?) がびっくりするほど集中して素敵な作品を作りました。



アルケミストが学んで欲しいこと：

触れる・聴く・嗅ぐ・・・みることはできない各感覚器官の情報を

みえるもの（視覚情報）に変換することを通じて、感覚を意識して働かせていきます。

いつもとは違った感覚の使い方をするので、終わると皆さん「疲れた～！」とおっしゃいます。が、同時に使わなかった筋肉を使ったあのような不思議な爽快感もあるようです。

面白いのは、これがとくに好きな子は、コミュニケーション能力がおしなべて高い子が多いという事実です。「察する」は感覚を複合的に用いた判断です。だからなのかもしれませんね。

以降はこれからの講座です。あと3回。どんな時間となるか、楽しみです^^

これからの講座

第8回：2020年3月28日（土曜日） しくみのある動物を紙でつくる

しくみのあるおもちゃを紙で作る・・・

飛び出たり、回ったり、動くしくみをいくつか紹介し、

それを使った紙工作をしてもらう内容です。

アルケミストが学んで欲しいこと：

「単純な仕組みを理解して、自分のアイデアに盛り込む」新しい知識をわかっていることとつなげてアイデアを発想することを楽しんでもらいます。後半になって、触れた素材が少し増えてきましたので、「あの時のあれ、使えるかな？」と知ったこと、やったことを応用できるようになってもらうことが目的です。

第9回：2020年4月25日（土曜日） 玉ねぎ染めをしてみよう

身近な材料で染物ができます。今回はたまねぎですが、他の素材も試してみたい人はぜひ。

実験してみて失敗するのもまた一興ですよ。

アルケミストが学んで欲しいこと：

いろいろな「つくる」を体験する活動の一環です。何かをやるうというときに、まず身の回り
にあるものでできないか？と身近なものを別の見方をして利用できないか考える、というところ
に繰り返し重点を置きたいと思います。

第 10 回：2020 年 5 月 23 日（土曜日） 最終回

最後はおつかれさまたこ焼き会、もしくはケーキ作りなどをしませんか？おうちごとに変わった
デコレーションをしても良いと思いますし、ケーキや料理のお皿を面白く作ったりしてから
行えば制作もできます。たのしいたくらみをしましょう ^^